

令和3年度 本庄市地域公共交通会議 (埼玉県本庄市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通等の現況

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成18年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる。)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけではカバーしきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。



一部山村指定

交通計画の基本方針／地域公共交通に関する施策・取組の概要

路線バスといった幹線移動軸に接続する公共交通サービスを確保し、公共交通ネットワークを充実させることで、高齢者等の交通弱者の自立的な日常移動の支援や公共交通不便地区の解消を図る。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

市内公共交通ネットワークを充実させるため、基軸となる路線バスに接続するフィーダー系統の運行を実施。フィーダー系統の運行により、公共交通を乗り継ぐことで市内を快適に移動することが可能になる。

補助対象事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続させる形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(JR高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

【デマンド交通：「はにぼん号」「もといずみ号」】

事業者名：朝日自動車株式会社
 運行区域：①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、
 ④児玉山間地域
 運行日：月曜～土曜（日曜、祝日、年末年始運休）
 運行時間帯：8時～17時（④児玉山間地域のみ、8時前、
 18時以降に通学用の運行）
 運行車両：ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)
 運賃：300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引
 制度あり)

【シャトル便：「はにぼんシャトル」】

事業者名：本庄観光株式会社
 運行系統：本庄駅～本庄早稲田駅 3.0km
 運行日：毎日
 運行時間帯：9時～19時
 運行本数：13.5往復/日
 運行車両：ワゴン車
 運賃：200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引
 制度あり)

面積	89.69km ²
人口 (R3.4.1時点)	77,793人
15歳未満	8,987人
65歳以上	22,422人
高齢化率	28.8%
世帯数	35,162世帯

交通計画の策定年月日

未策定

協議会開催状況

○協議会の開催状況 2回開催

- ・令和3年度第1回(令和3年5月28日)
書面協議
R4年度計画、デマンド交通等の協議
- ・令和3年度第2回(令和4年1月6日)
書面協議
R3年度事業評価の協議

前回の事業評価結果の反映状況

【デマンド交通】

- ・デマンド交通の周知と利用促進のため、本庄市公共交通ガイドを作成し、自治会・公共施設等へ配布した。
- ・評価検証の一環としてアンケートを実施した。
- ・デマンド交通の利便性を向上させるため、住民同士の支え合いを考える場(生活支援体制整備協議体)に参加し、情報交換を行った。
- ・HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。

【シャトル便】

- ・評価検証の一環としてアンケートを実施した。
- ・HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

○利用者数(利用実績値の向上)

- ・デマンド交通: 13,000人
- ・シャトル便: 16,000人
- ・地域間幹線系統(朝日自動車(株)路線バス): 前年度対比で増加

○利用者満足度(運行サービスに対する利用者満足度の向上)

- ・デマンド交通: 満足: 85%以上、不満: 現状より減少
- ・シャトル便: 満足: 85%以上、不満: 現状より減少

【当該指標・目標値を設定した理由】

- ・デマンド交通、シャトル便ともに、これまで最も多かった利用者数を目標値とし、市内公共交通ネットワークの充実を測るための指標として地域間幹線系統の利用者数を設定。利用者のニーズに応じた運行サービスとなっているかを評価するため利用者満足度を指標とする。

【効果】

- ・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
- ・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及びシャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、豊富な割引メニューを用意している。

今後の改善点

【デマンド交通】

新型コロナウイルス感染症の影響により、なるべく外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、移動手段を持たない交通弱者にとって買い物、通院といった日常の足となっているデマンド交通は、コロナ禍の中にあっても一定の利用がある。

今後は、地域公共交通計画の策定に向けたアンケートや利用状況の推移を見ながら、予約システムや車両数の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。

【シャトル便】

満足又は普通とアンケートで回答した利用者が98%となっている。今後もしばらく新型コロナウイルス感染症の影響により以前より低い利用者数を推移すると予想される。

今後は、地域公共交通計画の策定に向けたアンケート等で寄せられる意見を踏まえ、時刻表の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。

目標の達成状況・事業によって得られた効果

【令和3年度利用者数実績】

- ・デマンド交通利用者数: 9,809人
- ・シャトル便利用者数: 9,954人
- ・地域間幹線系統: 339,752人(前年度対比減)

【令和3年度利用者満足度実績】

- ・デマンド交通満足度: 満足68% 普通18% 不満8%
- ・シャトル便満足度: 満足43% 普通55% 不満2%

【目標を達成できなかった要因(分析)】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、なるべく外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れている。

【目標を達成できた要因(分析)】

- ・移動手段を持たない交通弱者にとって買い物、通院といった日常の足となっているデマンド交通は、コロナ禍の中にあっても一定の利用がある。シャトル便についても、交通結節点機能を充実する公共交通として市内外、様々な年代の方々に利用されている。これらのことが、利用者満足度において、不満と回答する割合の減少に表れている。

【効果】

- ・公共交通ネットワークを充実させ、高齢者等の交通弱者の自立的な日常移動の支援や公共交通不便地区の解消に資している。